



迎春

かけはし



MACB
QRコード

編集・発行

中部方面混成団
本部広報室

Tel.077-523-0034

新年の挨拶

中部方面混成団長

一等陸佐 佐藤 正典



中部方面混成団の隊員諸官、そしてご家族の皆様、団友の会をはじめ関係協力団体の会員の皆様、「かけはし」愛読者の皆様、明けましておめでとうございます。

関係協力団体の皆様には、平素から中部方面混成団に対し、ご支援ご協力を賜り心からお礼申し上げます。

また隊員のご家族の皆様には、日頃より隊員の心の支えとなり、激励をいただき、まことにありがとうございます。昨年八月に第六代中部方面混成団長として副団長から着任し、初めての新年を迎えました。

この間、基本教育では、新隊員、陸曹候補生、中級陸曹、上級陸曹、最先任上級曹長、予備自衛官補等の課程教育や招集教育訓練等を通じて、真摯に学び奮闘努力する学生並びに少しでも能力を高めさせようと愛情を持って接する教官の姿に感動しつつ、勤務してまいりました。

練成訓練では、四年計画で準備していた団の訓練検閲（部隊の訓練程度の評価）を八月に、川西駐屯地に所在する指揮所訓練支援センターを活用して、第四十九普通科連隊の指揮官の指揮及び幕僚活動を評価するとともに、十一月に、あいはら野演習場において「攻撃」の場面で常備自衛官と即応予備自衛官が一体となった部隊の練成成果を評価し、今後の練成のための沢山の教訓等を得ることができました。

本年は、基本教育では、新隊員受入れの増加を予期しつつ、その準備をしっかりと実施するとともに陸曹教育の更なる充実を図るため教育態勢の見直しを図るとともに更なる工夫に邁進します。

また、練成訓練では、第四十七普通科連隊の訓練検閲を予定しており、団全体として引続き更なる練度の向上を目指します。本年も混成団は、「進化無限」「凡事徹底」を合言葉として、隊員一同、真摯に隊務に精励する所存でありますので、今後とも、ご指導とご鞭撻、そしてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年の挨拶

中部方面混成団友の会

会長 田中清司



中部方面混成団の隊員の皆様、ご家族の皆様、ならびに団友の会の皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年、アメリカ大統領選挙があり、大変過激な考え方を持ったトランプ氏が大統領に選出されました。

今年からいよいよトランプ大統領の政治が始まりますが、トランプ氏は、政治においても、経済においても独自の考え方があり、安全保障についても、今までの米国とは違う考えであるとも言われています。

同盟国である我が日本にとっても、吉と出るか、凶とでるか、本当に分らないという不安があります。

今まで通り日米同盟が良好な関係で変わることはないと思いますが、今まで以上に国防に重点を置いていかないとけないのではないのでしょうか。

自衛隊員の方々におかれましては、日々任務を遂行するために日夜努力していただいておりますが、今後更なる任務の遂行を余儀なくされ、本当に変な一年になるかもしれません。

今年も隊員の皆様におかれましては、健康には十分に留意され、国土が安全、安心でいられますよう、日本をよろしくお願いたします。

中部方面混成団友の会の皆様におかれましては、本年も友の会の活動に對しまして、ご指示、ご支援、ご参加のほど、よろしくお願申し上げます。

最後に申し上げますが、今年も皆様方のご健勝で幸多いことをお祈り申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

新年の挨拶

中部方面混成団副団長

一等陸佐 齊藤 肇夫



新年あけましておめでとうございます。昨年八月副団長として着任しました齊藤一佐です。混成団隷下、また大津駐屯地の隊員とともに新年を迎えることができましたことは、協力・関係団体、地域や隊員家族の皆様の平素からご支援・ご協力の賜物と思っております。紙面をお借りしまして御礼申し上げます。さて、日本を取り巻く厳しい周辺情勢、混沌とした国際社会、またいつ何が起こしても不思議でない自然災害などに対応しつつ、防衛省・陸上自衛隊が大きく変革する時期、「人を育て、また一備えとしての力を充実」を図る方面混成団、大津駐屯地の意義を再認識し、付与されるであろう任務を確実に果たしてゆかなければなりません。

幾多の困難も予想されますが、積極進取の気概を持って「西(とり)組んでゆく所存です。皆様方にとりまして良い年であられることを祈念してご挨拶とさせていただきます。

今後ともよろしくお願いいたします。

新年の挨拶

第四十七普通科連隊長

一等陸佐 高山 博光



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新春を迎えにあられたこととお慶び申し上げます。また旧年中に賜りましたご支援ご協力、心温まるご声援に対し心から感謝申し上げます。昨年八月、第八代連隊長を拝命し、「心身を鍛え、技を磨け」を要望事項に掲げ、これを先輩方が築き上げて来られた伝統、特に連隊としての技を継承しつつ、更にこれに磨きをかけ、何時如何なる任務が与えられてもこれを完遂できる部隊を練成するため、常備自衛官と即応予備自衛官が一丸となって、日々訓練に励んでおります。

連隊はこれまで九回の招集訓練、三回の連隊統制(野営)訓練、総合戦闘射撃等によりそれぞれのレベルに応じた技を、また中部方面混成団及び第十四旅団が実施した指揮所訓練の場を活用した指揮幕僚活動の技を磨いて来たところです。

平成二十九年度は、訓練検閲が予定されており、これまで鍛えた心身と磨いて来た技を遺憾なく発揮できるよう引き続き精進してまいります。所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

賜りますようお願い申し上げます。皆様にとりまして幸多い飛躍の年であり、またすようお祈り申し上げます。

新年の挨拶

第四十九普通科連隊長

一等陸佐 茅野 剛也



新年明けましておめでとうございます。中部方面混成団友の会をはじめ協力諸団体の皆様、隊員及びご家族の皆様におかれましては、幸多き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中は格別のご理解と、温かいご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

第四十九普通科連隊は昨年、平成十六年三月連隊創隊以来初となる「連隊訓練検閲」を受閲しました。連隊としては実力が証明できる絶好の機会と捉え、年度当初から段階的に各種の訓練に励み日々練度を積み重ね、検閲受閲時には常備自衛官と即応予備自衛官が一体となって全力を出し切り任務を完遂することが出来ました。

我が四十九連隊は、有事の際、急速に自衛隊の戦力を増強する重要な部隊であります。本年も引き続き「即応」「錬磨」を要望事項に掲げ、日夜隊員と共に訓練に精励し、諸先輩方が築いて来られた良き伝統を継承しつつ如何なる任務にも即応出来るが如く日々錬磨に努めて参ります。

結びに皆様の今年一年のご健勝とご多幸を祈念致しますとともに、本年も変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

挨拶とさせていただきます。

新年の挨拶

第四陸曹教育隊長

二等陸佐 井川 三典



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年十二月、中部方面隊の陸曹教育を担当する第四陸曹教育隊の第三十代隊長を拝命いたしました。

隊は、陸曹上級、初曹特技、陸曹候補生、生徒陸曹候補生、方面陸曹基礎英語、最先任上級曹長及び中級陸曹の各課程教育等を担いし、真に戦える足腰の強い部隊の屋台骨となる陸曹の育成を狙いに、任務遂行の基礎となる知識・技能を修得させるべく、情熱もつた確実な指導により、日々教育に邁進してまいりました。

また、「俺を見よ、俺に続け」という伝統ある指標の下、リーダーシップを育成するとともに、基本・基礎を徹底することを、隊一丸となって精進努力する所存です。

本年も変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年の挨拶

第一〇九教育大隊長

二等陸佐 佐伯 智



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、穏やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年大隊は、一般陸曹候補生課程前期教育（男子）及び自衛官候補生（女子）に対する新入隊員教育を一昨年にも増して多くの人員に対し担任し、自衛隊の「最もフレッシュな新人」を育成するとともに、自動車教習所が担任する課程教育等により初級装輪及びけん引の特技保有者を輩出しました。この間皆様からのあたたかいご指導、ご支援に対し大隊一同心より感謝申し上げます。

また新入隊員教育修了後は予備自衛官補招集教育訓練及び予備自衛官招集訓練を担当するとともに団集中野営訓練において訓練統裁部の要員として各人の職種の見を活かした支援業務を遂行し、基幹隊員の練度維持向上に努めて参りました。

さて、新年を迎え大隊は来年度の新入隊員教育の任務完遂のため昨年以上に教育訓練の質的向上を念頭におき、「酉年」に相応しく大きく羽ばたく年となるよう、大隊一丸となって全力で隊務運営して参る所存です。皆様におかれましては昨年同様ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

新年の挨拶

第一一〇教育大隊長

二等陸佐 増田 樹紀



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

大隊は、一般陸曹候補生課程前期教育、予備自衛官補招集教育訓練などを担任し、新隊員等に陸上自衛官としての基本的事項を確実に修得させることを重視して教育に当たっており、ここ数年怪我により大隊に残留を要する新入隊員教育がございましたが、昨年はお陰さまで皆元気に修了し、教育任務を無事完了することができました。本年も情熱と愛情をもって教育に取り組み、逞しい自衛官或いは予備自衛官の育成に努めてまいりたい所存です。

特に本年の一般陸曹候補生は、昨年より七十名ほど多い四百名になる予定ですので大変さも増しますが、善通寺における最後の新入隊員教育をしっかりとやっていきたいと思っております。

また、松山駐屯地への移駐もいよいよ一年後となりました。基本戦闘訓練場の整備、教育計画の修正、松山への物品輸送の要領など逐次検討や準備を進めておりますが、移駐及びそれに引き続き新入隊員教育が円滑に実施できるような一層準備を推進してまいりたいと思っております。

本年もご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

中部方面混成団初の検閲 第49普通科連隊

常備・即自が一体となり、
強靱な戦闘を展開し任務完遂！

連隊（連隊長 茅野一陸佐）は、平成二十八年十一月二日から六日までの間、あいば野演習場（滋賀県高島市）において中部方面混成団が実施した平成二十八年度第二次団訓練検閲を受閲した。



訓示を述べる49連隊長

<連隊長要望事項>
「全力を出しきれ」

増強49連隊編成完結式

本検閲は、今年度計画されている連隊訓練検閲の第二弾（第一弾は指揮所機関の訓練）で、各出頭駐屯地に出頭した即応予備自衛官三八九名を含む七二四名が、課目「陣地攻撃における増強普通科連隊の行動」について受閲、我が四十九連隊は、第十特科連隊、第六施設群、第三戦車大隊、第十高射特科大隊、第三〇普通科直接支援中隊の支援を受け増強四十九連隊を編成し、二夜三日の状況に臨んだ。状況開始に先立って実施した増強四十九連隊編成完結式において茅野連隊長は、受閲にあたり「全力を出しきれ。」の一点を要望、「連隊長以下増強四十九連隊一丸となって、各隊員の持つ能力を最大限発揮し任務達成を勝ち取るう。連隊の実力を証明するぞ。」と隊員を鼓舞した。

展開し任務を完遂した。状況終了に伴い六日に実施した編成解組式において連隊長は、「我が四十九連隊は有事の際、急速に自衛隊の戦力を増強する重要な部隊である。今後とも練成を重ねその実力を保持し続けていこう。」と力強く訓示を述べた。

また、混成団訓練終了式において、本状況間の功績により十六名の隊員に混成団長から記念メダルが手渡された。



増強49連隊攻撃命令下達

～増強49連隊 訓練検閲フォトピックアップ～



敵情の解明



攻撃構想の示達



諸職種部隊との調整



火力調整会議



攻撃前進



対砲迫戦闘



普戦同時突入



記念メダル受賞者一同

第四十七普通科連隊

連隊（連隊長 高山一陸佐）は、十月五日から六日の二日間にかけて、原村基本射撃場及び原村演習場において、平成二十八年年度連隊競技会を実施した。本競技会は、平素から鍛えている「心身」と磨いている「技」を如何なく発揮するとともに、中隊の団結の強化及び士気の高揚を図ることを目的とし、中隊対抗方式で射撃の部と持続走（武装走）の部が行われた。射撃の部では、伏射五発、膝射五発の計十発を二回実施し、F的命中率（平均命中弾数）で行われた。



優勝

重迫撃砲中隊
射撃・持続走の部

選手は、要望事項でもある「一発、一発に魂を込める」を具現すべく指先に気迫を込め、最大限の集中力を発揮し戦いが繰り広げられた。また、持続走（武装走）の部においては、個人装備火器を携行した五名一組で編成した分隊が、起伏の激しい5kmのコースでタイムを争い、力を出し惜しみすることなく全隊員が互いに協力して一秒でも一歩でも前への気持ちでゴールに飛び込んだ。ゴールでは死力を尽くした隊員が倒れ込む姿が多く見受けられた。結果は、射撃・持続走の二冠に輝いた重迫撃砲中隊が、創隊以来、悲願の初優勝を手中に収めた。



的が出る前の緊張が漂う隊員の様子



ゴール前で激をとばし最後の力を振り絞る様子

第四十九普通科連隊

必中の執念で射撃に臨む

連隊（連隊長 茅野一陸佐）は十月六日及び七日の二日間、日野基本射撃場（岐阜県岐阜市）において平成二十八年年度連隊射撃競技会を実施した。

本競技会は、戦闘員として必要な射撃能力の向上を図るとともに、部隊の団結強化及び隊員の士気高揚を図ることを目的として行い、来たる平成二十九年一月に開催予定の混成団射撃競技会の選手選考（抽選要員の選定）も兼ねて実施、小銃の部（九課題及び十課題）及び拳銃の部（三課題及び四課題）の二部門、中隊対抗方式（平均命中弾数）で二五五名の隊員が競技に臨んだ。

連隊射撃競技会



2連覇を成し遂げ大いに盛り上がる優勝中隊（第3中隊）の隊員一同



優勝中隊長胴上げ

競技間、隊員たちは普通科精神とこれまで積み重ねてきた練成の成果を最大限に発揮し一発必中の執念で競技し、結果前回（一昨年前）優勝の第三中隊が他中隊の追従を押し切り見事二連覇を達成した。

閉会式において統裁官（連隊長）は、「要望事項『必中の執念を持った射撃の実施』について本競技会の終始を通じて確認した。本競技会の結果を十分に分析し、一月に実施される団射撃競技会に臨んでもらいたい。さらなる部隊の精強化に向け、各中隊長を核心としてより一層訓練に邁進することを期待する。」と述べ本競技会の所見とした。

また、表彰式では中隊対抗の部優勝の第三中隊及び準優勝の第四中隊が表彰されたほか、個人として十名の隊員が連隊長表彰を受賞した。



小銃の部



拳銃の部

第四陸曹教育隊



4 曹教友の会訓練研修



記念撮影



隊長挨拶・ブリーフィング



訓練研修



体験喫食

隊（隊長 井川二陸佐）は、十一月六日（日）、第四陸曹教育隊友の会の会員に対し、訓練研修を実施した。この訓練研修には、二十五名の会員の方が参加し訓練風景の研修や、駐屯地資料館の見学、装備品見学、隊員食堂での喫食を体験をしていただいた。訓練研修後、四曹教友の会の会員の方から、「自衛隊の隊員の方の訓練を見てとても心強い、とても良かった」といった旨の手紙が届き、この研修の目的である協力態勢の更なる強化を図れた。今後も、定期的にこのような研修等を部外協力者の皆様に対し実施していき、更なる協力態勢の強化に努めていく。

伝統・絆の継承

第一〇九教育大隊

江田島実務訓練参加



講堂内での記念撮影



広報幹部による江田島基地内の説明

大隊（大隊長 佐伯二陸佐）は、十一月二十四日から二十六日までの間、海上自衛隊第一術科学校等で実施された江田島実務訓練に第三一六共通教育中隊の基幹隊員十七名、大隊本部二名が参加をした。この訓練は、大東亜戦争時に戦った大日本帝国海軍軍人の使命感、死生観の一端に触れ、自衛官としてのあるべき姿を確立することを目的として実施した。実務訓練では、広報幹部による江田島基地の研修、大和ミュージアム及びつづのくじら館の見学をし、見識を深めた。この訓練に参加をした第三一六共通教育中隊の菊地三曹は「研修をして旧軍からの歴史や精神を学び如何に我々の任務に活かすことができるかを考えさせられた。」と述べていた。

第一〇九教育大隊

基幹隊員練成訓練

大隊（大隊長 増田二陸佐）は、平成二十八年十月十八日から十一月十六日までの間、小野演習場において各中隊ごと一夜二日又は二夜三日の基幹隊員練成訓練を実施した。

昨年実施した大隊統制中隊訓練の状況及び行動を基準として、夜間行進に引き続き集結地の占領・自衛警戒戦闘を実施し、隊員個々に基本基礎を再確認するとともに、部隊感覚の維持を図った。

訓練では、各人が整斉と行動し所望の成果を収めた。今回の訓練で得た教訓を新入隊員教育に反映させる所存である。



松山市内での行進訓練



重機関銃空包射撃



予備自補招集教育訓練

大隊は、十二月六日、今年度一回目のJタイプ訓練を終了し、七名の予備自補が五十日間の訓練を修了した。

七名中三名は自衛隊に入隊し、四名が予備自衛官として活躍する予定である。今後の更なる健闘を祈念する。



照準練習



手榴弾投擲

格闘検定

大隊は、十月上旬から格闘の練成訓練を実施中であり、十月二十七日・二十八日に一級・準特級、十一月十五日に特級の検定を実施した。

一月には、二級検定受検者の練成を鋭意実施する。



準特級（対小銃技術）



特級（対徒手技術）

陸上自衛隊 優秀隊員表彰

中部方面混成団兼ねて大津駐屯地 最先任上級曹長 大内准尉

混成団最先任の大内准尉は団兼ねて大津駐屯地最先任としての功績により平成二十八年年度優秀隊員に、隊務一般の部で選考され、十一月十日、明治記念館（東京都港区）において実施された平成二十八年年度優秀隊員顕彰状授与式において陸上幕僚長より表彰された。



岡部陸幕長から顕彰状を授与される大内准尉



陸幕長と記念撮影



陸上自衛隊 最先任上級曹長顕彰

年男の抱負

第一〇九教育大隊

二等陸曹 尾崎 祐介



新年明けましておめでとうございます。自衛隊に入隊して、二度目の年男を迎えました。

ここまで無事に勤務してこれたのも、良き上司・同僚の方々のご指導・ご鞭撻のおかげであり、また、家族の支えがあったからこそだと思います。

平成十九年八月に第一〇九教育大隊に配属以来中隊勤務を経て、一昨年の三月から大隊本部にて新入隊員人事係として勤務させていただいております。

今年には新入隊員が例年以上に増加するというところで、業務もより多忙になってくると思います。

過去の経験を生かしつつ、「現状維持は後退である。」という姿勢をもって、常に新たな任務に取り組み気持ちで頑張っていきたいと思っております。

第三十代第四陸曹教育隊長 井川 三典 二等陸佐着任

● 要望事項

「情熱・愛情」 「徹底」 「鍛錬」

- 出身地 千葉県
- 生年月日 昭和四十六年四月二十四日
- 職種 普通科

● 経歴
幹部候補生学校
第一空挺団普通科群
空挺教育隊
富士学校普通科部付
第一空挺団本部第三科防衛幹部
中央業務支援隊付
部外企業研修(伊藤忠商事)
統合幕僚監部首席後方補給官付補給室
陸上幕僚監部監理部総務課
第一空挺団第二普通科大隊長
第一空挺団本部第三科長

(久留米)
(習志野)
(習志野)
(習志野)
(富士)
(習志野)
(市ヶ谷)
(市ヶ谷)
(市ヶ谷)
(習志野)
(習志野)
(習志野)



団長による井川2佐の紹介



巡 閲

第四陸曹教育隊長 中山一佐離任

第二十九代第四陸曹教育隊長中山順一佐は、二年間の勤務を全うされ、十二月十九日付けで離任した。
中山一佐は、着任以来、「鍛えよう」を要望され、隊を統率し、また、自らも実践された。



団長と握手



団長による中山1佐の紹介

第四代団最前任上級曹長 大内准尉離任

平成二十八年十二月十二日(月)、中部方面混成団最前任上級曹長交代行事が行われ、第四代団最前任上級曹長、大内耕二准尉が離任した。

大内准尉は、着任以来、「鬼手仏心」を業務信条に掲げ、三年四ヶ月間の混成団最前任上級曹長としての職務を全うした。



離任行事



大内准尉の紹介



挨拶

第五代団最前任上級曹長 和田准尉着任

十二月十二日(月)、第五代中部方面混成団最前任上級曹長に第四陸曹教育隊から、和田稔之准尉が着任した。

『プロ意識と感謝』

『力・必・達』

(努めれば必ず達成できる。)

プロフィール

- 出身地 京都府
- 生年月日 昭和四十二年十月十九日
- 職種 普通科
- 主要勤務歴 第三十七普通科連隊 (信太山)
第四陸曹教育隊 (大津)



和田准尉